

トヨタの歴史・・・織機の会社が、世界一になるまで

横＝年代／縦＝4つの流れ。上から下に「会社」「危機」「世界」「技術」。同じ列で読むと、その時代に何が同時に起きていたかが見えます。

● 会社のできごと ● 危機と転換 ● 世界へ ● 技術

	1930s 創業	1940s 戦中戦後	1950s 再建	1960s 大衆化	1970s 規制	1980s 海外へ	1990s 環境	2000s 世界一	2010s 再構築	2020s 電動化
会社のできごと 組織・体制	1933 自動車部を設置 豊田自動織機製作所の中に 1937 トヨタ自動車工業設立 8月28日 1938 挙母工場 操業 11月3日＝創立記念日	1945 戦後の生産再開 トラックから復興	1950 販売会社を分離 トヨタ自動車販売を設立	1960s 量産体制の確立 工場と販売網を全国へ		1982 工販合併 いまの「トヨタ自動車株式会社」に	1992 トヨタ基本理念 制定 会社の考え方を明文化			2023 社長交代 その後も経営体制の交代が続く
危機と転換 いちばん苦しかった時		1940s 資材も燃料も足りない 統制下での生産	1950 経営危機と労働争議 創業者が社長を退く。 ここから生産方式の工夫が始まる		1973 オイルショック 燃費が売れる条件に変わる 1970s 排ガス規制 環境対応が必須に		1990s バブル崩壊後の低迷 国内販売が伸び悩む	2009-10 大規模リコール問題 北米中心。品質と向き合い直す	2011 震災と円高 部品の調達網を作り直す	2020s 半導体不足・納期の長期化 🕒 現在進行
世界へ 輸出・海外生産・ブランド			1957 米国へ輸出開始 クラウンを持ち込む	1960s 輸出が本格化 小型で燃費のいい車 が武器に	1970s 省燃費車が世界で売れる 日本車の評価が上がる	1984 米国で現地生産 GMとの合併工場 1989 レクサス発表 北米で高級ブランドを開始		2000s 世界販売で首位に 生産・販売の規模が世界最大級へ 2005 レクサス 日本展開		2020s 世界販売の上位を維持 🕒
技術 つくり方と動力	1938 ジャストインタイム導入 必要な分だけ流す考え方		1950s トヨタ生産方式が育つ 危機の中から生まれた工夫 1955 初代クラウン 純国産設計の本格乗用車	1966 カローラ登場 車が家庭のものになる	1970s 排ガス対策技術 規制に技術で応える		1997 初代プリウス 世界初の量産ハイブリッド車		2014 MIRAI 燃料電池車を市販	2022 bZ4X 専用設計の電気自動車 2020s 全方位戦略 HV・PHEV・EV・FCVを並行 🕒

 いちばん大きな転換

1950年の経営危機。ここで販売を分け、工場のむだを削る工夫が始まりました。のちに世界中がまねる「トヨタ生産方式」は、順調なときではなく、いちばん苦しいときに生まれています。

 ここだけ押さえる

トヨタの強さは"新しさ"ではなく"届け方"。1997年のプリウスも、20年以上かけてふつうの選択肢に育てました。慎重に見えるやり方が、結果として壊れにくさと下取りの強さになっています。

 影の部分も見ろ

大きくなった会社は、失敗も大きくなります。2009年からのリコール問題はその一つ。良いところだけを並べた会社紹介は、買う人の役には立ちません。